

R7 年度 栗東市議会広聴会
「栗東の観光資源を活かしたまちづくり～みんなで守り、育てる栗東の魅力～」
グループワーク意見まとめ

A グループ

1. 今ある魅力

- 街道観光
 - 旧東海道、旧中山道
 - 草津～石部 街道の魅力
 - 街道の中心 魅力
- 文化財
 - 文化財の保存(開発→宅地になる)
 - 金勝寺
 - 菌神社(きのこ)
 - 和中散
 - ほっこり庵
- 金勝里山
 - 里山
 - 金勝里山(竹づくり、里山づくり)

2. 課題

- 課題(全体)
 - 街道でのトイレがない
 - 栗東全体の観光ルートがない
 - 栗東全域の航空写真がない
 - 20年ほど進んでいない
 - ガイドブック等作ったが活用されていない
- 交通インフラ
 - JR で来てもその先、交通手段
 - トイレ、駐車場などの整備
- 経済・飲食
 - 飲食、宿などが少ない
 - 観光に流入しても金を落とすところがない
 - 国宝、重要文化財が多い
- PR・ボランティア
 - ボランティアなど問合せ先がわからない

- ボランティアセンターなどが活発に動けていない
- 歴史の伝承
 - 地元の人が地元の歴史を知らない
 - 金勝の歴史の伝え方

3. 課題解のために何ができるか？

- 道路整備
- 市バス導入(観光地回り)
- 生活・定住
 - 観光 ⇒ 魅力発見 ⇒ 栗東に住んでもらおう
 - 駅前マンション 利便

4. 栗東観光資源を活かすために

- 人づくりの活性化
- SNS の活用(簡潔な PR 方法)
- 観光の検索システム
- 古民家の活用
- 栗東名産品

【A グループ議論まとめ】

本グループでは、市内の豊富な歴史・自然資源が「点」のまま孤立し、十分に活用されていない現状を課題視した。特に、二次交通の弱さやトイレ・飲食施設の不足が、観光消費や満足度を妨げる大きな要因となっている。

これらの解決策として、まずは「市バスの観光地巡りルート導入」や「道路・駐車場の再整備」によるアクセス改善を提言。また、情報発信面では SNS の活用や検索システムの構築、窓口の明確化によるボランティアの活性化を図ることを提案。最終的には、観光を一時的な消費で終わらせず、地域の魅力を「定住」へと繋げるため、古民家活用や駅前の利便性を活かした「住みたくなる街づくり」と一体的な観光振興を目指すべきであると結論付けた。

B グループ

1. 今ある魅力

- 広大な自然「金勝山」
- 清らかな「水」
- 棚田風景、ホテル
- 旧東海道、中山道の歴史的文化財

- 金勝の豊かな自然
 - 旧東海道ぞいの静かな街並み
 - 清らかな水、水田風景、ホタル
- 2. 自然観察の森・山林
 - 自然観察の森
 - 子どもたちが自然に触れる大事な場所！
 - 施設の老朽化(国内に 10 施設しかない貴重な財産)
 - 山林の育成・伐採(治山事業は)
 - 金勝山の木材活用？
- 3. 施設・インフラの課題と要望
 - 散策中のトイレ事情改善して！(旧道や山道)
 - 山の施設の老朽化問題、早急の対応を
 - 森遊館のお風呂にたくさんのお客さんが来てくれたら金勝の山でリラックスしてもらえそう！
 - アクセスも向上を！
- 4. PR・お土産・特産品
 - もっと SNS 発信をして栗東を知ってもらいたい♥(ミツケーター)
 - 子どもも大人も楽しく買える「おみやげ」を作ろう！
 - ※ぴたっとキーホルダーみたいな安価で身近な物
 - ※「栗東に来た！」という思い出
 - 栗東の農産品や山の木材で特産品を開発してほしい
 - リピーターを増やす工夫を
- 5. 教育・コミュニティ・その他
 - トイレボランティア(子ども 100 番みたいに登下校利用)
 - 四季を通じて楽しめる山を！！
 - 栗東でしか手に入らない魅力的なもの
 - 特産品・ピンバッジ
 - 子どもも大人も楽しめるもの
 - 森遊館などの施設の維持管理費用、日帰り入浴、山の施設 PR

【B グループ議論まとめ】

本グループでは、金勝山の豊かな自然や「自然観察の森」、旧街道の歴史的文化財を市の貴重な財産と再定義した。議論の焦点は、これら既存資産の「維持と活用」に置かれ、特に施設の老朽化対策や、散策路におけるトイレ等のインフラ整備を早急に求める声が相次いだ。

具体的な施策として、森遊館の入浴施設を核としたリフレッシュ空間の提供や、地元

の農産品・木材を活用した「子どもも大人も欲しくなる安価で身近なお土産」の開発を提案。また、SNS による積極的な情報発信や、地域の見守りを兼ねたボランティア活動を通じ、四季を通じてリピーターが訪れる「みんなで守り育てるまちづくり」の重要性を強調した。

C グループ

1. 今ある魅力

- 自然が豊か！！
- 交通アクセスが良い But 草津線が少ない！！
- JRA 栗東トレセンの存在！！自慢できる！！
- 生まれが栗東、自然と街並みのバランスが良い(幸福度、栗東は高い！！)
- 「栗東」が読めない 読めない ↓ ひらがなでアピールしたら
- 大野神社を大切に！！
- 日向山の魅力！！
- 和中散・新善光寺をつなぐ活用

2. 課題

- 路線バスが不便だ！！金勝の道の駅が遠い
- 「栗東」が読めない
- 山道の整備(活かしきれてない！！)

3. 課題解のために何ができるか？

1. まちの名前をちゃんと伝える。「りっとう」アルファベットも。
2. 新たな魅力をつくる！！
3. 人的資源(武豊さんなどのアスリートの活用)
4. 植樹祭跡地の活用「天馬の森」とか

4. 栗東観光資源を活かすために

- デメリットを活かす！！マイナスをプラスに！！
- 公共交通の改善が必要！！
- 「栗東」の名前をひらがなでもっと周知をはかる！！
- 東海道を馬が歩く！！(蹄鉄など)もっと馬を身近に！！(乗馬体験など)
- 高校生にも協力願う！！(馬術部)
- 蹄鉄の活用
- 大野神社のあみに、おみやげに蹄鉄を！！

【C グループ議論まとめ】

本グループでは、JRA 栗東トレーニングセンターの存在を「誇れる強み」と再定義し、

馬を基軸としたまちづくりを議論の柱とした。具体的な施策として、東海道を馬が歩く風景の創出や、馬術部(高校生)との連携、蹄鉄を活用した大野神社のお土産開発など、馬を身近に感じられる体験価値の向上を提案。

また、「栗東(りっとう)」という地名の難読性を課題とし、ひらがなやアルファベット表記による周知徹底など、マイナスをプラスに変える発信戦略の必要性が強調された。公共交通の不便さや山道の整備不足といった課題を抱えつつも、アスリートなどの人的資源や植樹祭跡地を活用し、自然と街のバランスを活かした「幸福度の高いまち」を目指すべきであると結論付けた。

D グループ

1. 今ある魅力

- 生活・環境
 - 栗東の人がやさしい・なじみ易い
 - 子供が多い
 - 自動車で便利
 - インターが近い・有難い
 - 交通便が極めて良い
- 自然・文化
 - 豊かな山
 - ドライブコースに野洲川・金勝山がある
 - 旧東海道の文化がある
 - JRAトレーニングセンターとの関わりが深い(障害者・情緒障害への療育など)

2. 課題

- インフラ・整備
 - 道路のカラー舗装化が進んでいない
 - 観光地ドライブコースが無い
 - 公園の開設・整備計画が必要
- イベント・文化
 - 花火大会が事故で中止になった
 - 新・旧の意識の差がある
 - 松並木があれば…?
 - 小槻大社のみこし(担ぎ手不在)
 - JRA(馬)との繋がりが必要

3. 課題解決のために何ができるか?

- 地域・コミュニティ
 - 地域で声を上げて改善する
 - 自治会で歴史を知って欲しい、引き継ぎを含め自治会で発信
 - 公園とスポーツ大会のコラボを企画
- 施設利用
 - 図書館で飲食サービス(カフェ・ランチ)の提供。静寂の中での課題を克服
 - 広い広場に駐車を参考に

4. 栗東の観光資源を活かすために

- 食と憩いの場
 - お食事処と拠点が必要
 - 公園とイベントのコラボ
 - 空き家を休憩所に
- 具体的なPR・整備
 - トイレ・駐車場・Wi-Fi の管理
 - 広報誌などによるPR
 - まず和中散を市財産に
- 独自プロジェクト
 - 栗東公式 LINE の積極利用・PR・構築
 - 棚田の木、環境プロジェクト

【D グループ議論まとめ】

本グループでは、高速道路インターチェンジの近さや交通の利便性、そして「住民の温かさ」を栗東市の基盤となる強みとして再確認した。議論では、これらの生活利便性を観光や地域活性化へ転換するための施策に重点が置かれた。

具体的な解決策として、空き家を活用した休憩所の設置や、図書館への飲食機能(カフェ等)の付加、Wi-Fi 環境の整備など、既存施設の多機能化を提案。また、自治会主導による歴史の継承や公式 LINE の積極活用、和中散を市の財産として守る仕組みづくりを重視。伝統的な「小槻大社のみこし」の担ぎ手不足や、イベントの中止といった課題に対し、公園とスポーツ大会のコラボレーションなど、新旧住民が共に参加できる新たな交流機会の創出が必要であると結論付けた。

E グループ

1. 今ある魅力

- 歴史・文化財

- 魅力的な文化財(歴史ある)
- 10 数文化財誇るべきもの
- 文化財が豊富(全国的にみても)
- 街並のまち、中山道、東海道
- 自然・風景
 - 季節・天候により新しい発見がある
 - 走井の畑、駅から 20 分 別世界
 - 金勝寺から山を下りながら発生
 - みどりと文化の街 栗東(祝 皇太子)
- その他
 - 神社・仏閣 譲りついで守っていく大事

2. 課題

- インフラ・サービス
 - 交通手段が弱く交通機関ネック
 - トイレ・休憩所がほとんどない
 - 観光マップ(他市に比べても)充実していない
 - 遠方からのお客さんは多いが地元は少ない
- 情報・認識
 - 地元の人が地元のことを知る！！
 - 栗東の地元より転入が多い
 - 栗東地元の方、魅力を発信する手法も大事
- その他
 - 山のルーツが伝わってこないのが残念
 - 観光行事の時に困る

3. 課題解決のため何ができるか？

4. 栗東の観光資源を活かすために

- 馬(JRA)との連携
 - 「馬のまち 栗東」を活かしきれていない
 - 馬と触れあえる環境が必要
 - 馬フンの処理をまわす ⇒ 肥料になる ⇒ 土が肥える ⇒ 野菜に肥料と
していく ⇒ 循環型社会
- 発信・PR
 - SNS の発信、地元の人からファンが増える
 - TikTok など集客がある
 - メディアへの出演
 - 連携 市とガイド協会と観光協会

- 教育・体験
 - 教育の中で栗東の歴史を知らせる事も大事
 - 工場見学(日清食品など)
 - 地域の人に声をかける、地元が歓迎する！！

【E グループ議論まとめ】

本グループでは、全国屈指の文化財や旧街道の街並み、駅からわずかな距離に広がる田園風景を市の大きな魅力として高く評価した。一方で、交通アクセスの脆弱さやトイレ・休憩所の不足、また「地元住民の関心の低さ」が大きな課題として指摘された。解決策として、特筆すべきは JRA(馬)を軸とした「循環型社会」の構築提案。馬術体験などの交流に加え、馬フンを肥料として活用し地場産野菜を育てるエコシステムの創出を提言。さらに、TikTok 等の SNS を駆使した若年層への発信や、学校教育での歴史伝承、工場見学との連携を強化することで、観光客と地元住民が共に栗東の魅力を再発見し、歓迎し合える体制づくりが不可欠であると結論付けた。

F グループ

1. 今ある魅力

- 歴史・文化・風景
 - 金勝山のアピール、馬頭観音、金勝寺、摩崖仏などをもっと知られていない
 - 素晴らしい資源、国宝級が多い。重要文化財、国宝、和中散本舗、金勝寺
 - 街道の魅力、それに京都に近い、京都にうもれてしまう、観音、寺、古道
 - 豊かな自然、田舎、暮らし、ネオンが無い静かさ
 - 栗東独自の競馬、乗馬
- 観光の可能性
 - ハイキングコース、もっと道があれば
 - どう活かすか、仕組みづくりで収益可能性あり

2. 課題

- インフラ・環境
 - トイレ、きれいな公衆トイレが無い
 - 支え合い、助け合い、トイレの清掃から
 - 性善説だが、転んでケガしても自己責任という看板が必要
- 情報・PR

- 栗東駅、手原駅から写経ができる場所へのルート
 - 外国人、若い人、あらゆる年代、ターゲット層に合わせた広報を
 - かたよった発信力、インバウンドの流れを
 - 子ども達が乗って来ない(興味を持たない)
 - その他
 - 家庭づくり
 - 1号線、輪道、中山道
- 3. 課題解決のために何ができるか？**
- 馬との連携
 - 馬とふれ合える場所を作る
 - 大野神社を核に、引退した馬の活用
 - 馬のお掃除 ⇒ まちのゴミを馬に食べさせる、土を有効に
 - トレイルランイベントを
 - 周知・教育
 - 札幌(※読み取り)から来た、金勝山へ知らせる！！
- 4. 栗東の観光資源を活かすために**
- 場所・機会づくり
 - 馬とふれ合える場を知らせる
 - 引退馬の蹄鉄をかざる
 - ボランティア、公園づくり
 - 馬の糞の有効活用(再利用、肥料など)

【F グループ議論まとめ】

本グループでは、金勝寺や摩崖仏などの国宝級・重要文化財が豊富にありながら、「京都の影に隠れて十分に知られていない」現状を最大の課題と捉えた。また、きれいな公衆トイレの不足や、ターゲット層に合わせた発信力の偏りも指摘された。解決策として、栗東独自の資源である「馬」を軸にした展開を重視。引退馬と触れ合える場の創出や蹄鉄の活用に加え、馬の糞を肥料や土壌改良に活かす循環型の仕組みづくりを提案した。さらに、駅から文化財へのアクセスルートの明確化や、自己責任の原則を明示した上でのハイキングコース整備などを通じ、歴史・自然・競馬を掛け合わせた「栗東ならではの体験価値」をインバウンドや若年層へ戦略的に届けるべきであると結論付けた。

Gグループ

1. 今ある魅力

- 自然・環境
 - 自然(金勝プラス)
 - 自然が豊か、若い人が多い
 - 山頂から見える(びわ湖、街並み)
- 歴史・文化
 - 歴史がある、由緒ある
 - 五百井神社、小槻大社など、歴史ある神社仏閣がある
 - 歴史(和中散)、街並み(歴史)を知ること、広めること

2. 課題

- インフラ・情報
 - 案内しにくい、道がせまくわかりにくい
 - 交通事情(道など)が不便
 - 登山道が荒れている
- コミュニティ・認識
 - 交流人口の不足
 - コミュニケーション不足の解消

3. 課題解決のために何ができるか？

- PR・連携
 - SNS の活用
 - ふるさと納税の活用
 - コラボレーション
 - 栗東外の市外の人との観光交流
 - 金勝、旧東海道、馬、神社仏閣の連動

4. 栗東の観光資源を活かすために

- 市民意識・教育
 - 市民の関心を増やす、市民にもっと知らせる
 - 地元のよさをアピール、誇りに思えること
 - 子供との親行(好)
- 運営・システム
 - 他団体との連携、DX の推進
 - 資金を稼げるシステム作り
 - 補助金の増額(備品の充実など)
 - 交流人口への補助金増額
 - PR(YouTube、インスタ、フェイスブックなど)

【G グループ議論まとめ】

本グループでは、金勝山からの眺望や歴史ある神社仏閣、和中散本舗といった資源を「栗東の誇り」と位置づける一方で、登山道の荒廃や複雑な交通網による「案内のしにくさ」を課題として挙げた。

解決策として、単なる PR に留まらない「稼げるシステム」の構築を提言。具体的には、ふるさと納税の活用や DX の推進、交流人口拡大のための補助金整備など、資金面と効率面の両立を重視した。また、SNS や YouTube を駆使した発信と並行し、まずは市民自身が地元の良さを知り、子供たちと共に誇りを持てるような教育・親睦機会を増やすことで、内側から活力を生み出す持続可能な観光振興を目指すべきであると結論付けた。

【ワークショップ総括】

本ワークショップでは、国宝級の文化財や金勝山の自然、JRA トレーニングセンターといった全国に誇れる資源が、現状では「点」として孤立し、十分に活用されていないという共通認識が示された。

最大の共通課題はインフラ整備であり、特に二次交通の脆弱性、公衆トイレや休憩所の不足が、観光消費や満足度を妨げる要因として全グループから指摘された。また、地元住民の関心や知名度の低さも大きな壁となっている。

これらの解決策として、SNS や DX を駆使した戦略的 PR に加え、「馬」を軸とした循環型社会の構築や、引退馬を活用した体験プログラムの創出など、栗東独自のアイデンティティを活かした施策が提案された。さらに、ふるさと納税や稼げるシステムの構築といった持続可能な運営体制への言及もあった。

今後の展望として、観光を一時的な消費で終わらせず、シビックプライドの醸成や移住・定住促進へと繋げる視点が重要である。点在する資源を「線」で結び、市民と来訪者が共に魅力を享受できる「幸福度の高いまちづくり」の推進が強く求められる。

以上